

**「中央新幹線（東京都・名古屋市間）
環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」
に基づく事後調査報告書
（準備工事着手前）**

2026年2月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

第1章 事業の概要	1-1
1-1 対象事業の名称	1-1
1-2 事業者の氏名及び住所	1-1
1-3 対象事業の目的及び内容	1-1
1-4 本書の概要	1-1
1-5 工事の概要	1-6
第2章 事後調査を行った理由	2-1
第3章 事後調査の項目及び手法	3-1-1
3-1 事後調査項目	3-1-1
3-2 事後調査の手法	3-2-1
第4章 事後調査の結果	4-1-1
4-1 調査結果	4-1-1
第5章 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが 明らかになった場合の対応の方針	5-1
第6章 業務の委託先	6-1
参考： その他の調査の結果	参-1

まえがき

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」（以下、「評価書【静岡県】」という。）において実施するとして事後調査等のうち、準備工事に係る事後調査等の結果について、静岡県環境影響評価条例、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査計画書 平成26年11月」（以下、「事後調査計画書」という。）及びこれに対する静岡県知事意見を踏まえて、工事着手前に実施したものを、事後調査報告書として取りまとめたものである。

第1章 事業の概要

1-1 対象事業の名称

中央新幹線品川・名古屋間*

※ 評価書においては、中央新幹線（東京都・名古屋市間）と記載していたものを、工事実施計画の認可申請に合わせて変更したものである。

1-2 事業者の氏名及び住所

名 称	東海旅客鉄道株式会社
代 表 者 の 氏 名	代表取締役社長 丹羽 俊介
主たる事務所の所在地	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号

1-3 対象事業の目的及び内容

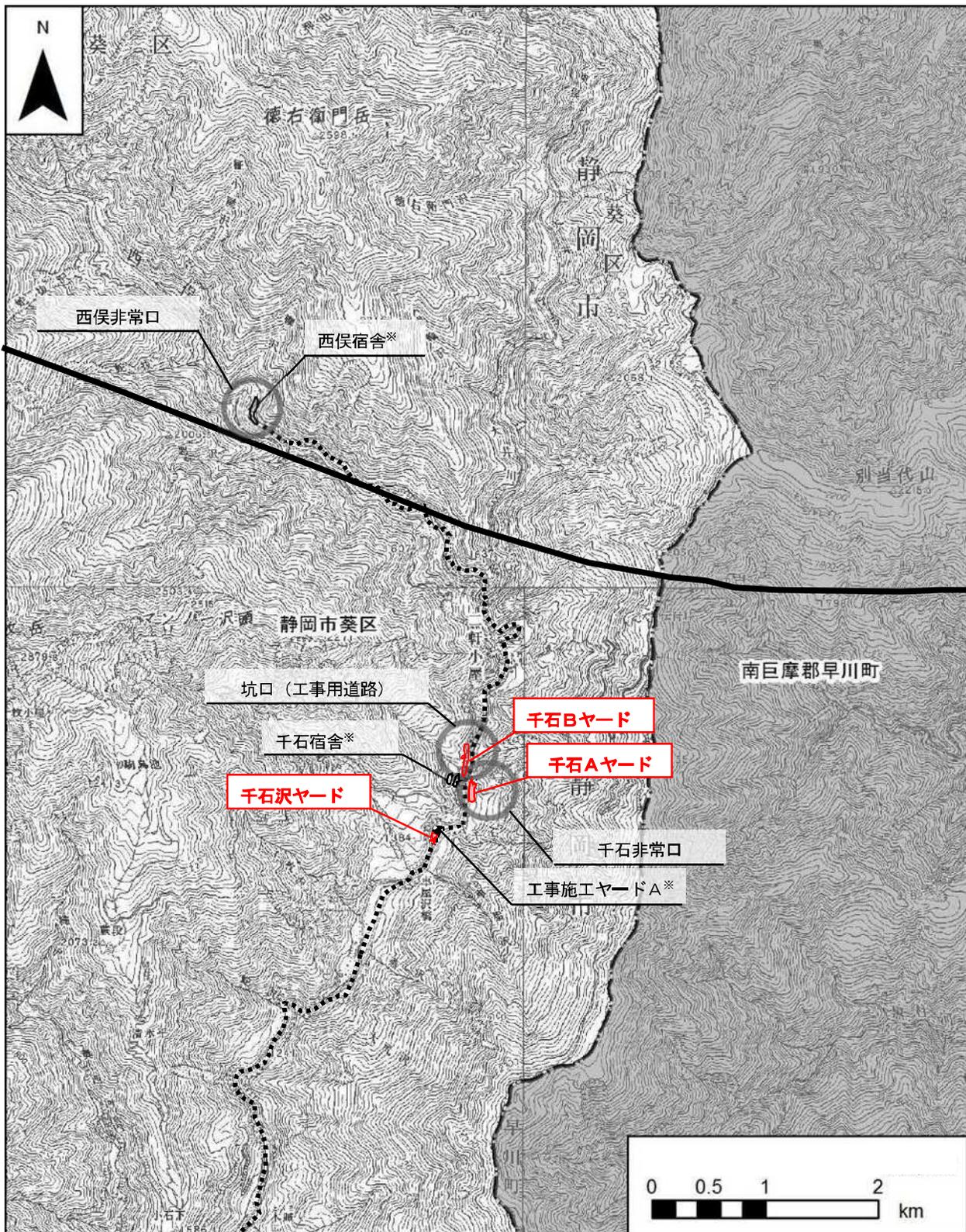
評価書の「第3章 対象事業の目的及び内容」に記載のとおりである。

1-4 本書の概要

本書は、静岡県内の準備工事のうち、千石Aヤード、千石Bヤード、千石沢ヤードの各ヤードにおける作業を対象としている。

工事に関する内容の一部については、「「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査報告書（宿舍等工事着手前）平成30年9月」（以下、「事後調査報告書（宿舍等工事着手前）」という。）、「「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査報告書（工事施工ヤードA造成作業等（宿舍等工事関連）着手前）平成31年3月」（以下、「事後調査報告書（工事施工ヤードA（宿舍等）着手前）」という。）において、既に報告を行っている。

各ヤードの位置を図1-1、各ヤードの工事範囲、配置を図1-2に示す。



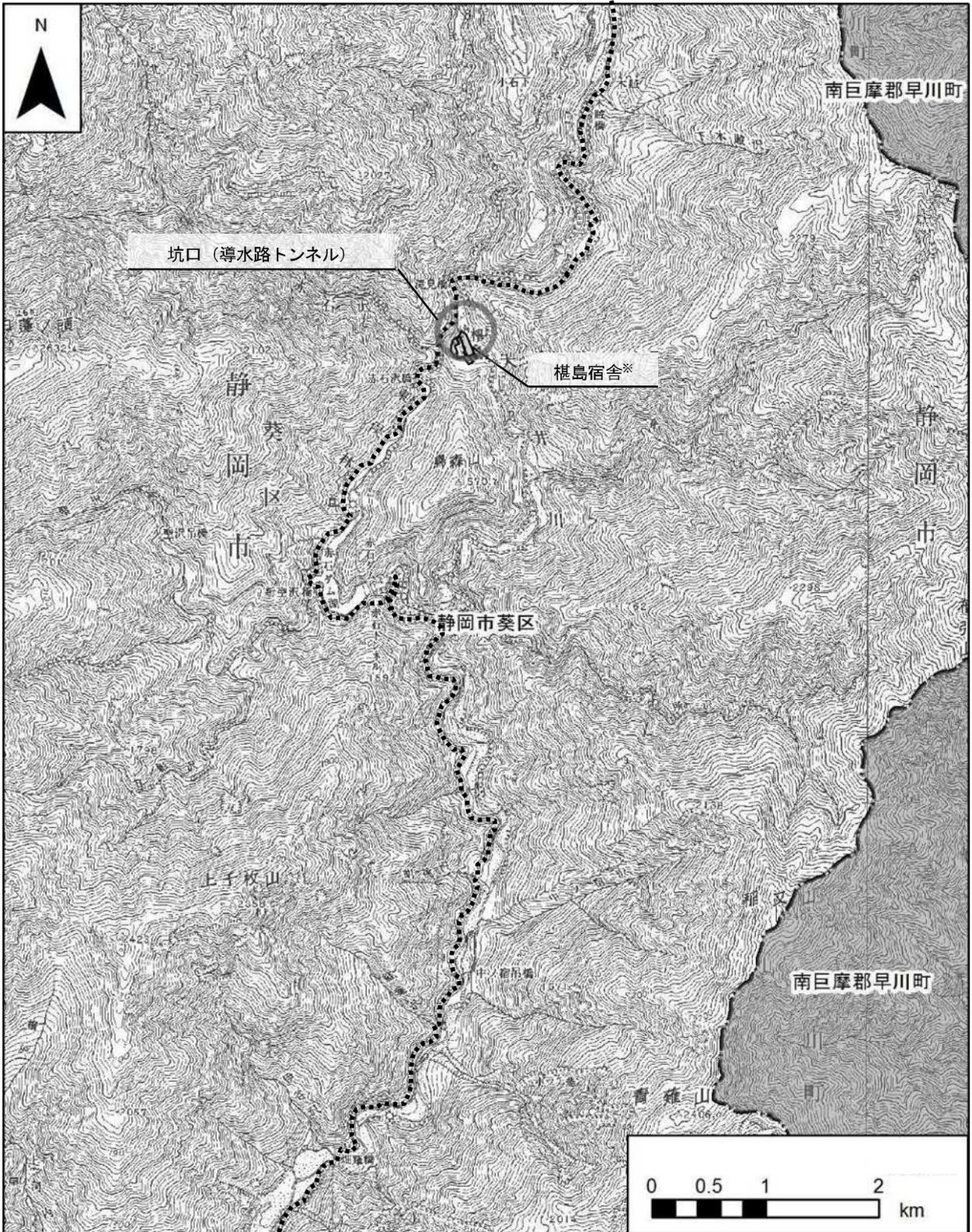
凡例

- 計画路線 (トンネル部)
- - - 県境
- 工事に使用する道路

本書の対象ヤード

※ 「事後調査報告書 (宿舎等工事着手前)」、「事後調査報告書 (工事施工ヤードA (宿舎等) 着手前)」にて報告済み

図 1-1(1) 工事位置図



凡例

—— 計画路線 (トンネル部)

- - - 県境

..... 工事に使用する道路

※「事後調査報告書 (宿舎等工事着手前)」にて報告済み

図 1-1 (2) 工事位置図

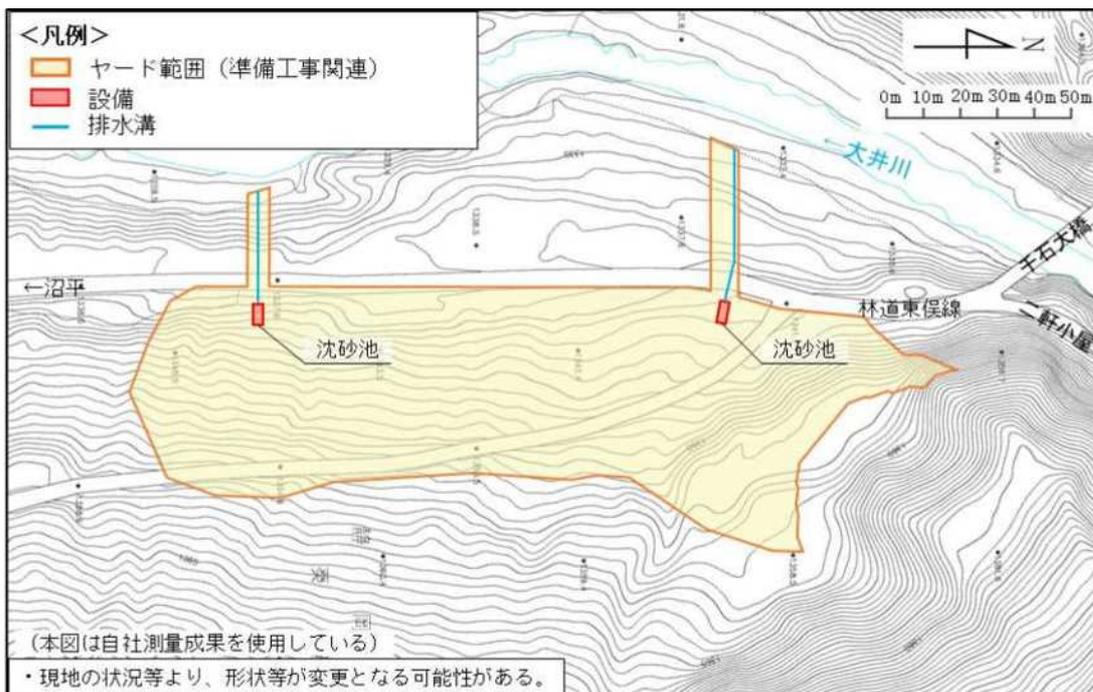


図 1-2(1) ヤード範囲、配置 (千石Aヤード)

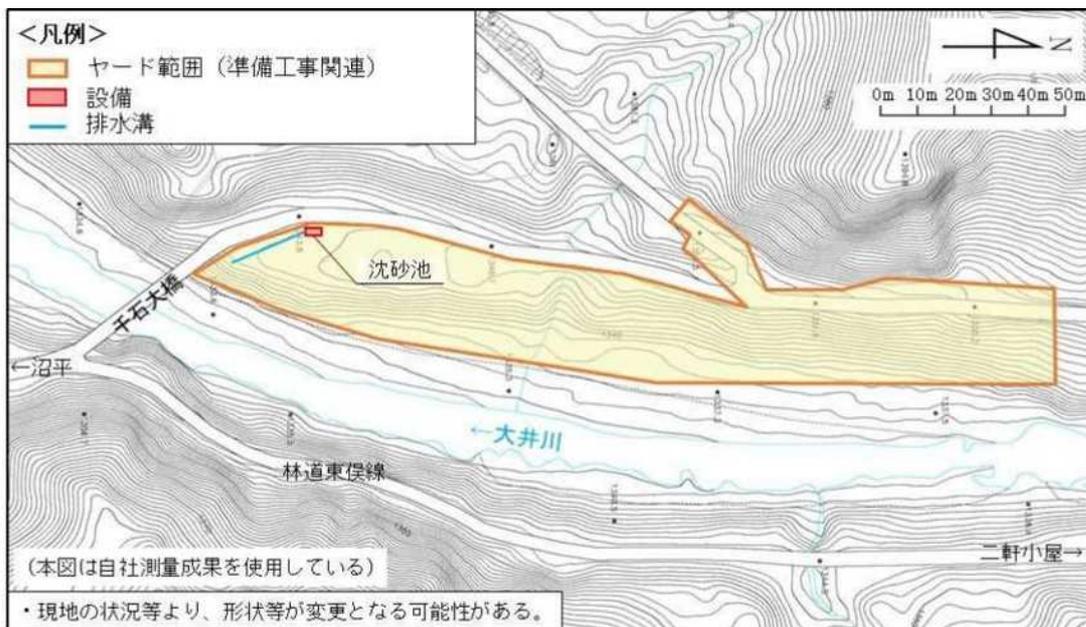


図 1-2(2) ヤード範囲、配置 (千石Bヤード)

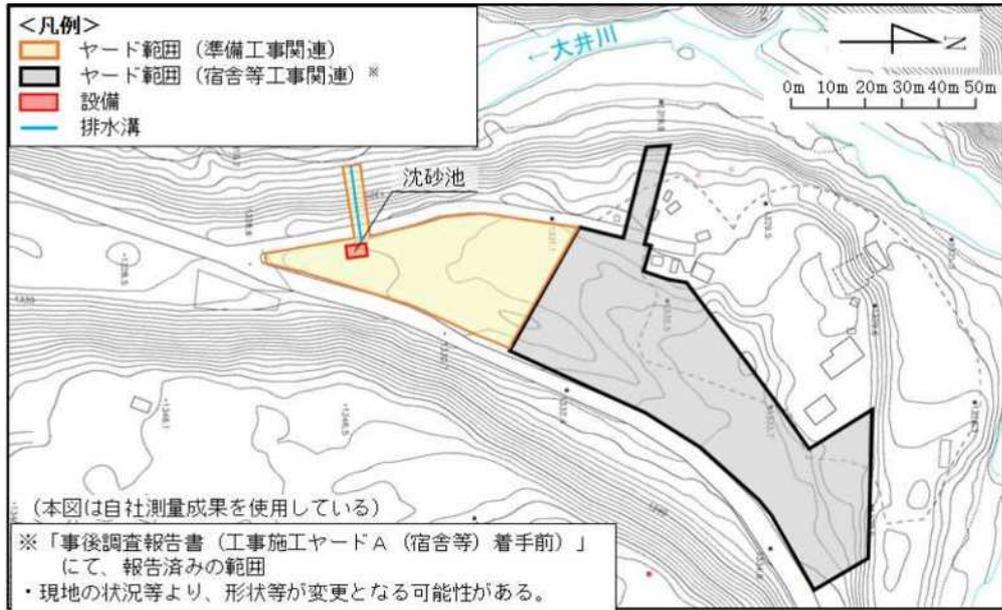


図 1-2(3) ヤード範囲、配置 (千石沢ヤード)

1-5 工事の概要

- ・各ヤードは、図 1-3 に示すとおり、重機等を使用して伐採を行う。
- ・各ヤードでは、図 1-4 に示すとおり、重機等を使用して造成、整地を行う。
- ・各ヤードの計画地は、人工林等を選定している。
- ・千石Aヤードについては、静岡市長意見※を踏まえ、ヤード周辺の大井川沿いに生育するウラジロモミ天然林の改変を回避する計画とした。
- ・なお、準備工事の工事工程、工事用車両の運行計画については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について」（2026年2月）の「2-4 工事工程」、「2-5 工事用車両の運行」に記載している。

※ 「「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【静岡県】平成26年8月」に基づく事後調査報告書（工事施工ヤードA造成作業等（宿舍等工事関連）着手前）に関する意見書」（平成31年4月）より、「施工予定地周辺は、過去に伐採された箇所ではあるものの、その後の植林の記録がなく、潜在自然植生であるウラジロモミの天然林が広がっている。また、林床には希少な草本類が数多く生育しており、自然度は非常に高い場所といえる。このため、ヤードの造成にあたっては、改変範囲を最小限にとどめる必要があると考える。」と意見をいただいている。



図 1-3 伐採（写真は静岡県内の宿舍等工事での事例）



図 1-4(1) 造成・整地（写真は静岡県内の宿舍等工事での事例）

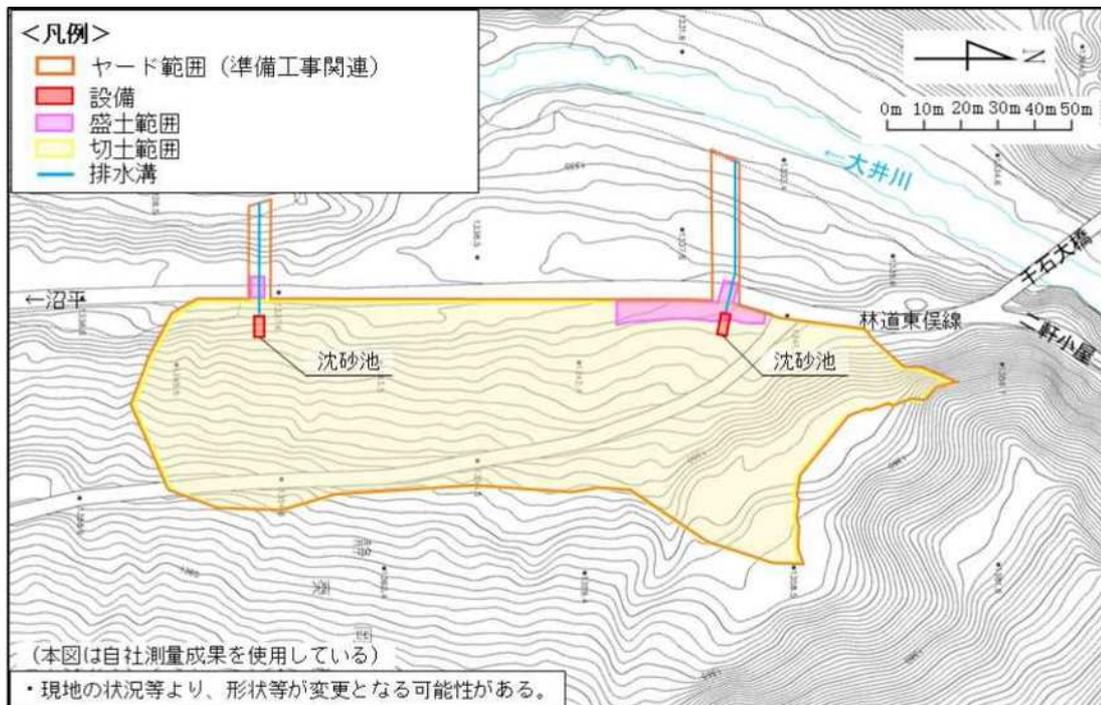


図 1-4(2) 造成・整地（千石Aヤード）

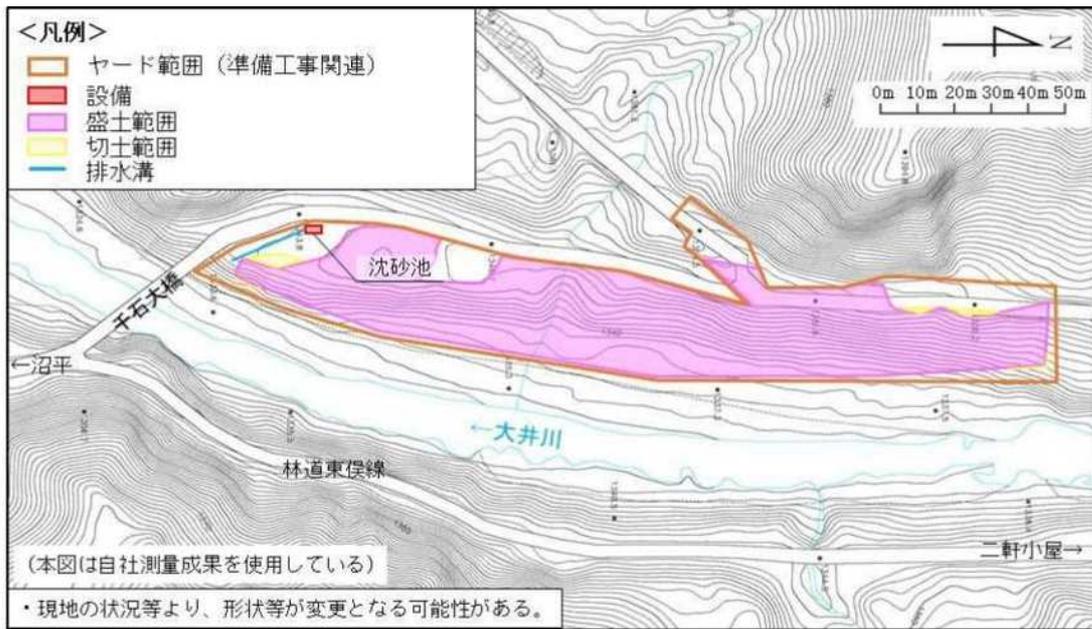


図 1-4(3) 造成・整地（千石Bヤード）

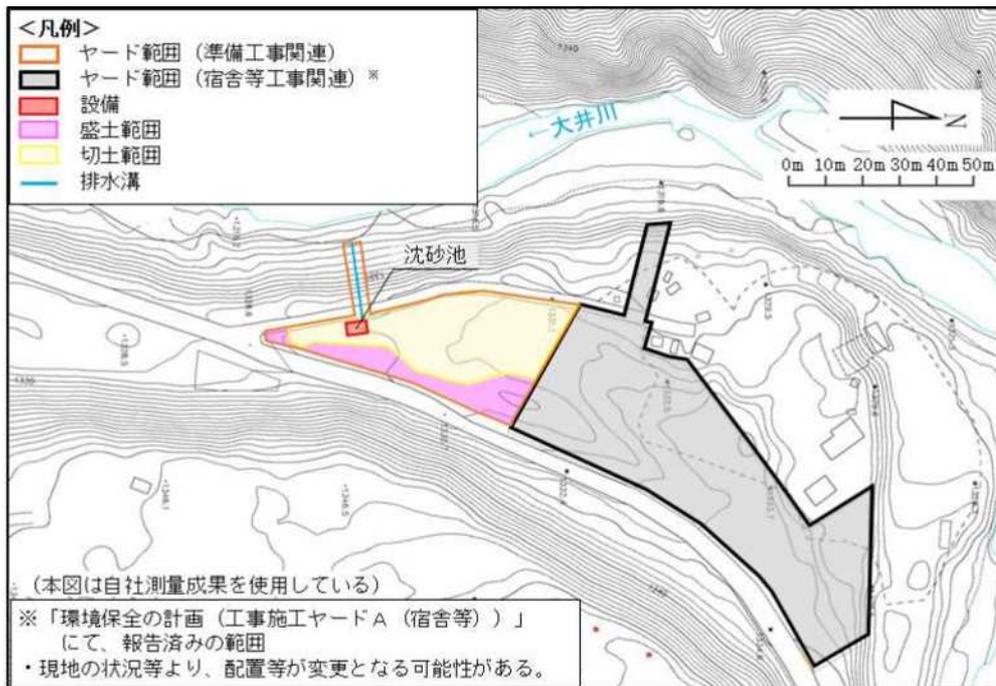


図 1-4(4) 造成・整地（千石沢ヤード）

第2章 事後調査を行った理由

事後調査は、事後調査計画書に基づいて実施した。事後調査計画書では、評価書【静岡県】において、不確実性があると考えられた予測及び環境保全措置の効果を検証するため、対象事業にかかわる工事の着手前、工事中、完了後において、環境要素の4項目（水環境、動物、植物、生態系）の事後調査を実施することとしている。

準備工事に関しては、植物について環境保全措置（移植・播種）を実施したが、その効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく主務省令（平成10年6月12日運輸省令第35号）（以下「主務省令」という。）の定めにより、事後調査を実施することとした。

事後調査を行うこととした項目について、その実施理由を表 2-1 に示す。

表 2-1 事後調査の実施理由

環境要素の区分		事後調査を行うこととした理由
植物	重要な種及び群落	重要な種の移植、播種は、環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。

第3章 事後調査の項目及び手法

準備工事に関して、工事着手前において、表 3-1-1 に示す事後調査を実施する。

3-1 事後調査項目

事後調査項目を表 3-1-1 に示す。

表 3-1-1 事後調査項目

環境要素の区分		調査項目	調査時期
植物	重要な種及び群落	移植・播種した植物の生育状況	工事着手前

3-2 事後調査の手法

3-2-1 重要な種及び群落：移植・播種した植物の生育状況

(1) 調査項目

調査項目は、工事前に移植・播種した植物の生育状況とする。

準備工事に関して対象となる植物については、ヒロハノヘビノボラズ（アカジクヘビノボラズを含む。）、ヤマシャクヤク、チョウセンナニワズ、ミヤマスマレ、ミヤマニガウリ、トダイアカバナ、タチキランソウ、レンブクソウ、ヒトツバテンナンショウ、ギンラン、イチヨウラン、ホザキイチヨウラン、クロクモキリソウである。なお、植物に係る環境保全措置の内容等については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について（2026年2月）」の「3-7 重要な種の移植・播種」に記載している。

(2) 調査地点

現地調査地点は、準備工事に関して、移植・播種を実施した地点であり、調査対象種を表 3-2-1 に示す。

表 3-2-1 移植・播種を実施した植物

種名	科名	移植・播種前の生育地	移植・播種の実施箇所	移植・播種の実施時期
ヒロハノヘビノボラズ (アカジクヘビノボラズを含む) ^{※1}	メギ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2018年10月30日(移植)
ヤマシクヤク ^{※2}	ポタン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025年12月1日、2日 (移植・播種 ^{※4})
チョウセンナニワズ ^{※1}	ジンチョウゲ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2017年9月26日(移植)
ミヤマスマレ ^{※2}	スマレ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025年12月3日(移植・播種 ^{※4})
ミヤマニガウリ ^{※2}	ウリ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025年11月5日(播種 ^{※4}) 2025年12月1日(播種 ^{※4})
トダイアカバナ ^{※1※2}	アカバナ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2018年11月1日(移植・播種) 2025年11月5日(移植・播種 ^{※4})
タチキランソウ ^{※2}	シソ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025年11月5日(移植・播種 ^{※4})
ヒトツバテンナンショウ ^{※1※2}	サトイモ科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2017年10月30日(移植・播種) 2025年11月7日(移植・播種 ^{※4})
ギンラン ^{※2}	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025年12月2日(移植・播種 ^{※4})
イチヨウラン ^{※2}	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2025年11月6日(移植・播種 ^{※4})
ホザキイチヨウラン ^{※2※3}	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2017年9月28日(移植・播種 ^{※4}) 2025年11月6日(移植・播種 ^{※4}) 2025年12月1日(移植・播種 ^{※4})
クロクモキリソウ ^{※1※2※3}	ラン科	静岡市葵区田代	静岡市葵区田代	2018年11月2日(移植・播種 ^{※4}) 2025年12月1日(移植・播種 ^{※4})

※1 評価書等において保全対象種とした植物ではないが、「静岡県自然環境保全条例」(昭和48年、静岡県条例第9号)に関連して静岡県と協議した結果、ヒロハノヘビノボラズ(アカジクヘビノボラズを含む。)及びチョウセンナニワズ、ヒトツバテンナンショウは、「まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-植物編 2004」(平成16年、静岡県)において絶滅危惧種に指定されていたことから、トダイアカバナ、クロクモキリソウは、「静岡県版レッドリスト 2017」(平成29年、静岡県)において新たに絶滅危惧種に指定されたことから、移植・播種を実施した。

※2 「静岡県自然環境保全条例」(昭和48年、静岡県条例第9号)に基づく自然環境保全協定の締結に向けた希少野生動植物調査において確認された種であり、「まもりたい静岡県の野生生物 2020-静岡県レッドデータブック-植物・菌類編」の掲載種であることから、移植・播種を実施した。

※3 ホザキイチヨウラン及びクロクモキリソウの移植先の検討を行うにあたって、専門家の意見を踏まえ、共生する菌根菌の同定を行った。また、周辺の樹木伐採等による間接的な影響を受けやすい種とされていることから、改変区域の周辺に生育する個体についても、一部移植する計画とした。

※4 専門家の意見を踏まえて、自生株周辺の表土も合わせて移植した(埋土種子の播種)

※5 レンブクソウについては、今後、現地で生育状況を確認し、移植・播種を実施する。

(3) 調査時期及び頻度

これまでに実施した現地調査の期間を表 3-2-2 に示す。なお、移植・播種後の生育状況調査は、移植・播種後 1 ヶ月以内及び移植・播種後 1 年間は発芽期（播種した場合のみ）、開花期及び結実期にそれぞれ 1 回、それ以降は移植・播種後 3 年まで結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家等への報告、確認を踏まえて調査期間を設定することとする。また、調査結果によって、専門家等への報告、確認を踏まえ、調査期間の見直しを検討する。なお、移植・播種実施時の専門家等による技術的助言の内容については、「静岡県内中央新幹線建設工事に伴う準備工事における環境保全について（2026 年 2 月）」の「3-8 専門家等の技術的助言」に記載している。

表 3-2-2(1) 現地調査期間（植物の生育状況）

種名	調査日
ヒロハノヘビノボラズ (アカジクヘビノボラズを含む)	(2018 年移植個体) ○移植後 1 ヶ月以内 ・2018 年 11 月 14 日、11 月 28 日 ○移植後 1 年目 ・2019 年 5 月 10 日（開花期） ・2019 年 8 月 6 日（結実期） ○移植後 2 年目 ・2020 年 8 月 28 日（結実期） ○移植後 3 年目 ・2021 年 8 月 4 日（結実期）
ヤマシャクヤク	(2025 年移植個体、播種箇所) ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日
チョウセンナニワズ	(2017 年移植個体) ○移植後 1 ヶ月以内 ・2017 年 10 月 11 日、10 月 30 日 ○移植後 1 年目 ・2018 年 5 月 22 日（開花期） ・2018 年 7 月 17 日（結実期） ○移植後 2 年目 ・2019 年 7 月 17 日（結実期） ○移植後 3 年目 ・2020 年 8 月 25 日（結実期）
ミヤマスマレ	(2025 年移植個体、播種箇所) ○移植・播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日
ミヤマニガウリ	(2025 年播種箇所) ○播種後 1 ヶ月以内 ・2025 年 11 月 20 日、11 月 27 日、12 月 9 日、12 月 18 日

表 3-2-2(2) 現地調査期間（植物の生育状況）

種名	調査日
トダイアカバナ	<p>(2018年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年11月13日、11月27日 <p>○移植後・播種後1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年6月11日（発芽期） ・2019年9月25日（開花期） ・2019年11月22日（結実期） <p>○移植後・播種後2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年10月15日（結実期） <p>○移植後・播種後3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年10月15日（結実期） <p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年11月20日、11月26日
タチキランソウ	<p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年11月20日、11月26日
ヒトツバテンナンショウ	<p>(2017年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年11月9日、11月21日 <p>○移植後・播種後1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年5月10日（発芽期） ・2018年5月23日（開花期） ・2018年8月7日（結実期） <p>○移植後・播種後2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年8月6日（結実期） <p>○移植後・播種後3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年8月28日（結実期） <p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年11月20日、11月26日
ギンラン	<p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年12月9日、12月18日
イチヨウラン	<p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年11月21日、11月27日

表 3-2-2(3) 現地調査期間（植物の生育状況）

種名	調査日
ホザキイチヨウラン	<p>(2017年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年10月11日、10月12日、10月27日、10月28日 <p>○移植・播種後1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年5月22日（発芽期） ・2018年7月17日、7月18日（開花期） ・2018年9月19日（結実期） <p>○移植・播種後2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年9月4日（結実期） <p>○移植・播種後3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年9月11日（結実期） <p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年11月21日、11月27日、12月9日、12月18日
クロクモキリソウ	<p>(2018年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年11月13日、11月27日 <p>○移植後・播種後1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年5月9日（発芽期） ・2019年7月17日（開花期） ・2019年11月22日（結実期） <p>○移植後・播種後2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年10月15日（結実期） <p>○移植後・播種後3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年10月13日（結実期） <p>(2025年移植個体、播種箇所)</p> <p>○移植・播種後1ヶ月以内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年12月9日、12月18日

(4) 調査手法

現地調査（任意観察）による確認とし、専門家等への報告、確認を踏まえながら実施した。

第4章 事後調査の結果

準備工事に係る工事着手前の事後調査として、移植・播種を実施した植物の生育状況に関して調査を実施した。

4-1 調査結果

4-1-1 ヒロハノヘビノボラズ（アカジクヘビノボラズを含む。）

ヒロハノヘビノボラズ（アカジクヘビノボラズを含む）の生育状況調査の結果を図 4-1 に示す。

(2018 年移植個体)

3 個体、移植を実施した。

移植後 1 ヶ月以内の確認（2018 年 11 月 14 日、2018 年 11 月 28 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

移植後 1 年目の開花期の確認（2019 年 5 月 10 日）では、3 個体の生育を確認したが、開花は確認されなかった。結実期の確認（2019 年 8 月 6 日）では、3 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 2 年目の結実期の確認（2020 年 8 月 28 日）では、3 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年目の結実期の確認（2021 年 8 月 4 日）では、3 個体の生育を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年間の調査において、個体の生育が確認できたことから、専門家への報告・確認を踏まえて、調査は終了した。



ヒロハノヘビノボラズ
移植箇所

ヒロハノヘビノボラズ
移植個体

全景写真

近景写真

移植後の現地状況（2018年11月14日：移植後1ヶ月以内）



ヒロハノヘビノボラズ
移植箇所

ヒロハノヘビノボラズ
移植個体

全景写真

近景写真

移植後の現地状況（2018年11月28日：移植後1ヶ月以内）

図 4-1(1) 生育状況調査結果（ヒロハノヘビノボラズ）

4-1-2 ヤマシャクヤク

ヤマシャクヤクの生育状況調査の結果を図 4-2 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

地点①に 4 個体、地点②に 10 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）では、地点①、地点②において、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

4-1-3 チョウセンナニワズ

チョウセンナニワズの生育状況調査の結果を図 4-3 に示す。

(2017 年移植個体)

2 個体、移植を実施した。

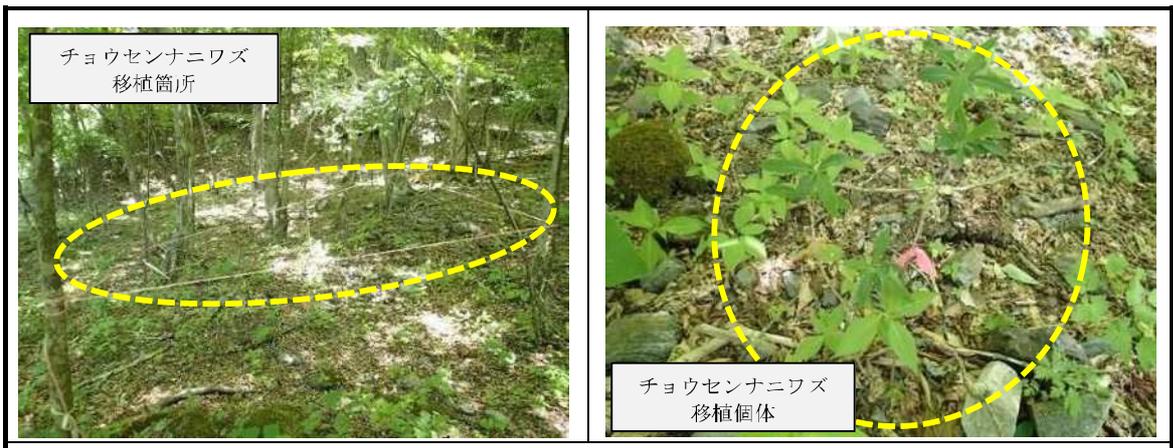
移植後 1 ヶ月以内の確認（2017 年 10 月 11 日、2017 年 10 月 30 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植地の環境変化や移植個体の変化も特に見られなかった。

移植後 1 年目の開花期の確認（2018 年 5 月 22 日）では、1 個体の生育を確認した。結実期の確認（2018 年 7 月 17 日）では、1 個体の花芽を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 2 年目の結実期の確認（2019 年 7 月 17 日）では、2 個体の花芽を確認したが、結実は確認されなかった。

移植後 3 年目の結実期の確認（2020 年 8 月 25 日）では、2 個体の花芽を確認したが、結実は確認されなかった。

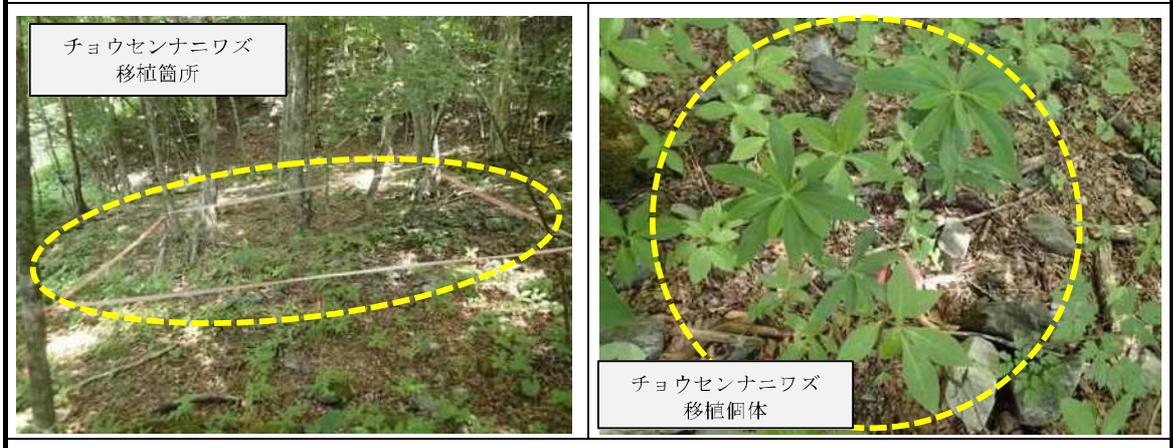
移植後 3 年間の調査において、個体の生育が確認できたことから、専門家への確認、報告を踏まえて、調査は終了した。



全景写真

近景写真

移植後の現地状況 (2018年5月22日：開花期)



全景写真

近景写真

移植後の現地状況 (2018年7月17日：結実期)

図 4-3(2) 生育状況調査結果 (チョウセンナニワズ)

4-1-4 ミヤマスミレ

ミヤマスミレの生育状況調査の結果を図 4-4 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

30 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 12 月 9 日、12 月 18 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

4-1-5 ミヤマニガウリ

ミヤマニガウリの生育状況調査の結果を図 4-5 に示す。

(2025 年播種箇所)

播種について実施した。

播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 27 日、12 月 9 日、12 月 18 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、播種箇所の環境変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

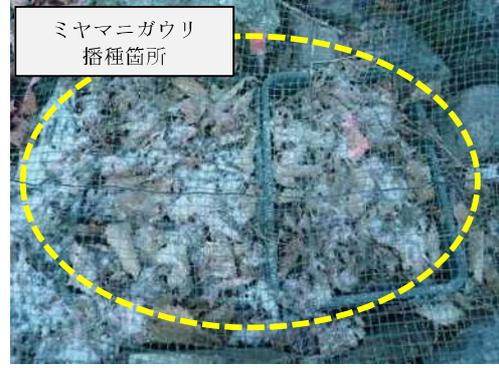
	
<p>播種後の現地状況 (2025年11月20日：播種後1ヶ月以内)</p>	<p>播種後の現地状況 (2025年11月27日：播種後1ヶ月以内)</p>
	
<p>播種後の現地状況 (2025年12月9日：播種後1ヶ月以内)</p>	<p>播種後の現地状況 (2025年12月18日：播種後1ヶ月以内)</p>

図 4-5 生育状況調査結果（ミヤマニガウリ）

4-1-6 トダイアカバナ

トダイアカバナの生育状況調査の結果を図 4-6 に示す。

(2018 年移植個体、播種箇所)

1 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2018 年 11 月 13 日、2018 年 11 月 27 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

移植・播種後 1 年目の発芽期の確認（2019 年 6 月 11 日）では、1 個体の生育を確認した。開花期の確認（2019 年 9 月 25 日）では、1 個体の開花、結実を確認した。結実期の確認（2019 年 11 月 22 日）では、1 個体の生育を確認した。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 2 年目の結実期の確認（2020 年 10 月 15 日）では、個体の生育は確認されなかった。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 3 年目の結実期の確認（2021 年 10 月 15 日）では、個体の生育は確認されなかった。播種箇所においては、発芽は確認されなかった。

移植・播種後 3 年間の調査において、移植・播種後 2 年目、3 年目の調査では個体の生育は確認されなかった。しかしながら、本書の対象ヤードではないが、ツバクロ発生土置き場計画地から図 4-6 の付近へ移植した個体は、移植後 3 年間の調査において個体の生育を確認できたことから、専門家への確認、報告を踏まえて、調査は終了した。

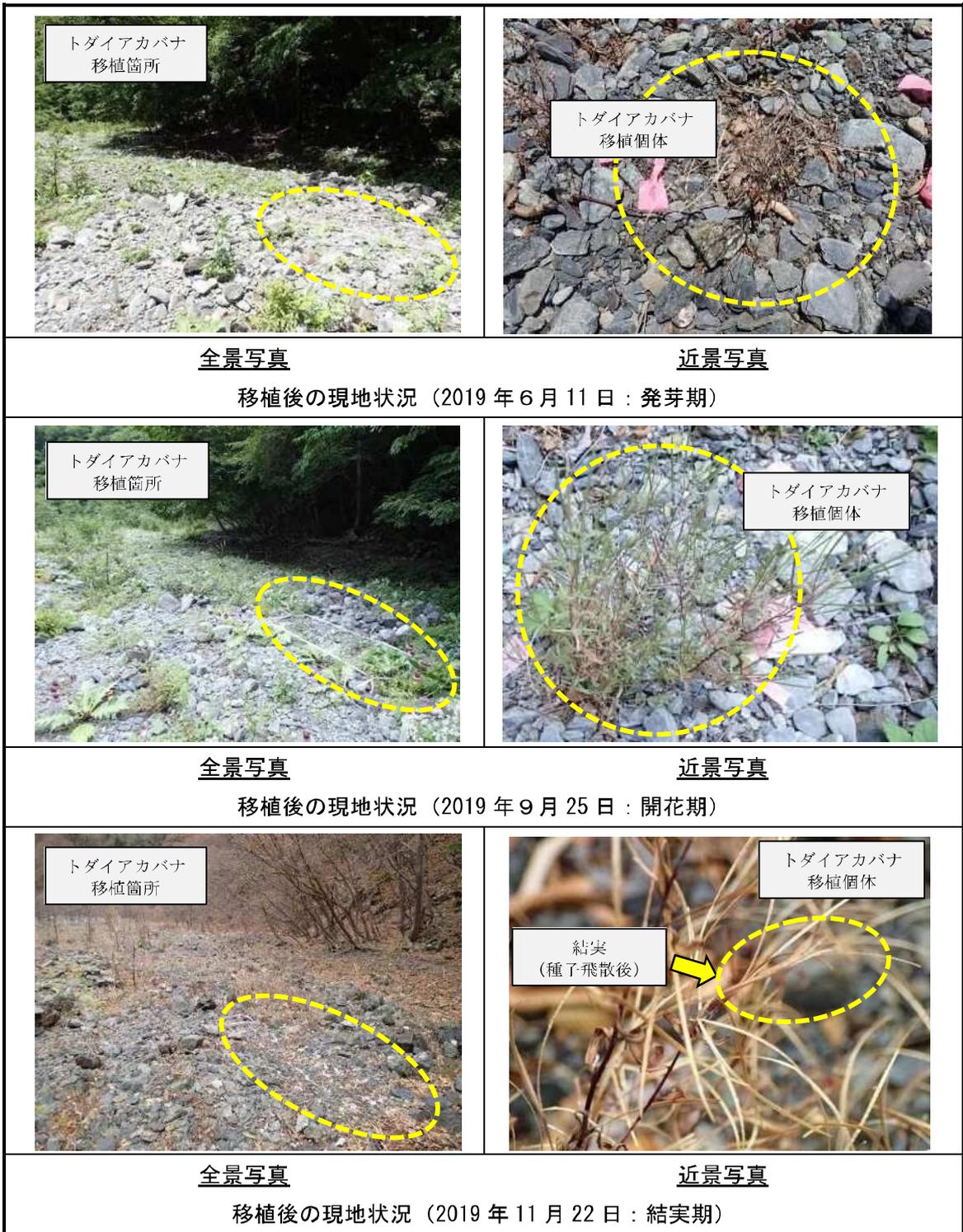


図 4-6(2) 生育状況調査結果 (トダイアカバナ)



図 4-6(3) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）



図 4-6(4) 生育状況調査結果 (トダイアカバナ)

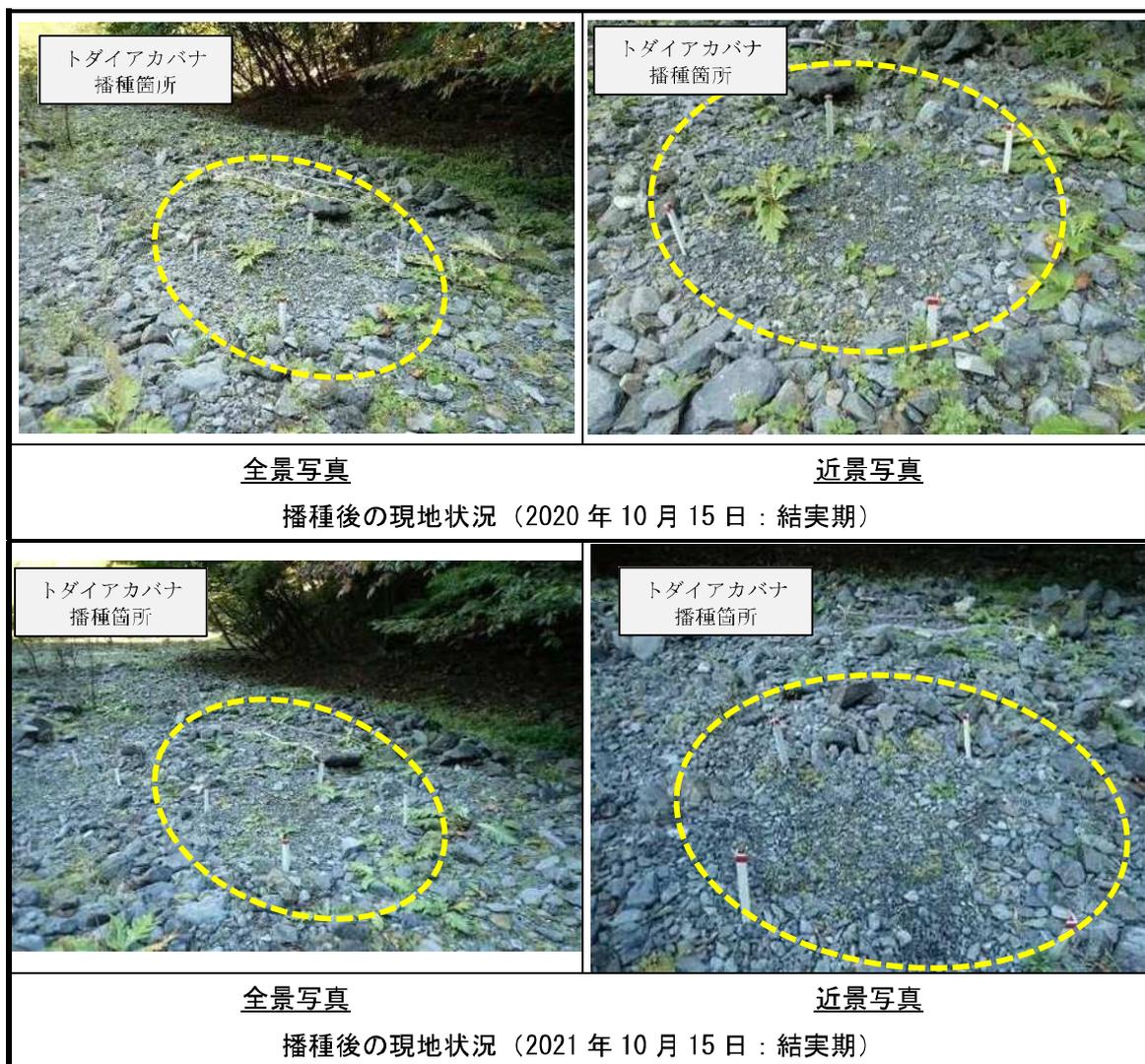


図 4-6(6) 生育状況調査結果（トダイアカバナ）

(2025 年移植個体、播種箇所)

15 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種地の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

4-1-7 タチキランソウ

タチキランソウの生育状況調査の結果を図 4-7 に示す。

(2025 年移植個体、播種箇所)

38 個体、移植を実施した。また、播種についても実施した。

移植・播種後 1 ヶ月以内の確認（2025 年 11 月 20 日、11 月 26 日）においては、表土の流出やシカ等による掘り返しもなく、移植・播種箇所の環境変化や移植個体の変化は特に見られなかった。

今後の調査においても、生育状況を確認する予定である。

